

令和7年度第2回保幼小接続担当者研修(動画配信) アンケートより【講義の感想】

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育・家庭教育推進室

講義 「特別支援教育の視点から考える保幼小の接続」

(講師:茨城大学 教授 新井 英靖 氏)

受講者:778名(保・幼・認398名、小315名、特支21名、市町村44名) 回答者:517名

ご協力いただいた方、ありがとうございました。アンケートでいただいた感想の一部をご紹介します。

幼児教育施設保育者の感想より

- ・ 幼児教育と小学校教育の違いを理解した上で、相互参観を充実させ、実際に架け橋プログラム作成に取り組み始める必要があるように思った。
- ・ 園における日常的な遊び、私たちの丁寧なかかわり、支援指導が小学校における授業実践の中で、どのように具体的に活用されるのか、理解を深めることができた。今後、小学校の授業実践を更に学んでいきたい。
- ・ 保幼小接続の意義と方法を学び、また、その中で特別支援教育の視点からも保幼小の接続に必要なことを学ぶことが出来た点がとても良かった。様々な子どもの実態を保護者と共有し、困り感を和らげながら就学を迎えられるよう子どもたちをサポートしていく事の大切さを実感する内容だった。
- ・ 配慮が必要な子どもに対しては私たち自身が教え方を工夫するという捉え方が大切である事に気付いた。また、保護者と良好な関係を築くことが大切なので引き続き意識して保育していきたいと感じた。
- ・ 幼児期と児童期は段差を乗り越えるという発想ではなく、どちらも重なり合っている時期であり、すぐに切り替わるものではないことを学べた。また、幼児の学びと児童の学びを融合した保育・教育実践の展開が必要であることも学んだ。
- ・ 保護者や幼児に求めるばかりではなく、教師自身の意識や保育の改善も大切であることを感じた。
- ・ 普段の保育を振り返ることができた。何気なく普段やっていることでも、もっと意識したら声掛けが変わるのではないかと思う点があった。また、今回学んだことや知ったことを保護者への情報として生かしていきたいと思った。

小学校教員の感想より

- ・ 児童一人一人の特性を理解し、よさを伸ばせるよう幼児期と融合した教育活動を行いたいと思った。幼児教育の視点を取り入れることを意識して授業づくりをするとともに、担任自身の表情や身振り手振りも環境の一つだということに気付いたので、今後意識していきたい。
- ・ 幼児教育施設での学びと小学校での学びが連続性をもつように、カリキュラムを工夫し、児童の発達段階に応じた学びができるようにすることがとても大切であると感じた。
- ・ 「架け橋期」ならでの授業を もっと研究して実践に当たりたいと思った。
- ・ 小学校での学習内容を見直す良い機会となった。連携の意味がまた一つ分かったような気がした。支援を必要としている児童の保護者へのアプローチの仕方も参考になった。
- ・ 発達の連続性を重視し、子ども一人一人のニーズに応じた切れ目のない支援を、幼児教育施設と連携して提供することが大切であると感じた。
- ・ 子どもを肯定的に捉えることの大切さを学んだ。日々の学習指導では、できないところに目を向け、どうしたらできるようになるかを考えて指導していた。しかし、今できていることに目を向けられず、褒める機会を失っていることに気付いた。常に「評価の眼差し」を向けていたこともあり、「共感の眼差し」をもつ努力をしなければならぬと感じた。また、褒める際も、1つのものさしで褒めてしまっていた。多様性の時代、子どもたち同士がお互いを認め合うためにも、私自身が様々な尺度で子どもたちを認めていくことが大切だとわかった。

特別支援学校教員の感想より

- ・ 幼児教育施設と学校をつなぐ「システム」と「実際の活動（具体的活動）」はとても重要だと感じた。保幼小の連携に係わる方は勿論のこと、多くの先生に聞いてほしいと思う内容だった。特に、「見方を変える」ということについては、日々の教育現場においては理想であるかもしれないが、指導者が少しでも意識するだけでその理想に近づけそうな気がした。

市町村幼児教育アドバイザー(指導主事等含む)の感想より

- ・ 幼小どちらも幼児理解・児童理解が大切だと感じた。行動も応用行動分析的にアセスメントを考えることが大切であるが、やはりその子どもの背景を考えることが支援するヒントとなることが多いのではないかと感じた。
- ・ 私立の幼児教育施設と連携するためにはどのような手立てがあるのか、教育委員会以外の担当課との連携について具体的な事例等などがあると今後の参考になると思った。
- ・ 保幼小の先生方に理解を深めてもらうと共に、各小学校区の保幼小連絡会で引き継ぎを充実させたい。架け橋カリキュラムにもしっかりと取り入れたい。



令和7年度第2回保幼小接続担当者研修(集合研修) アンケートより

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育・家庭教育推進室

講義「特別支援教育の視点から考える保幼小接続～特別支援教育課関係事業を踏まえて～」(講師：特別支援教育課 安藤 尚徳 主任指導主事)の後、気になる子どもの行動の事例等をもとに、保育者と小学校教員のグループ協議を行いました。各グループに特別支援学校の特別支援教育巡回相談員の先生方に協力者として参加いただきながら、意見交換を行いました。気になるお子さんについて具体的な支援方法を一緒に考えたり、協力者から助言を受けたりなど、有意義な時間となりました。

参加者：208名(保・幼・認111名、小67名、特19名、市町村11名)

7月4日(金) 県南生涯学習センター：87名、7月16日(水) 県教育研修センター：121名
ご出席いただいた皆様、ありがとうございました。アンケートの意見の一部をご紹介します。

幼児教育施設保育者より

- ・他の幼児教育施設や小学校の先生、教育委員会の方との意見交換や事例についての協議を行えてとてもよい学びとなった。特別支援学校の先生からの助言も参考になった。様々な視点から討論することができよかった。
- ・一人一人の子どもに対する支援の仕方や先生方の思いは、とても共感する部分が多かった。
- ・講義を通し、支援が必要な子どもの不安や苦痛を安心へ変えることが大切であるということを再確認できた。
- ・「遊びは学び、学びは遊び“やってみよう”が学びの芽」と聞いて、わたしたちも子どもたちの興味関心はなにに向いているのか、一人一人をよく見る目が必要であること。そのために環境の工夫、適切な援助を大切にしたいと思った。
- ・講義で学んだことを保育の中に取り入れながら、子どもが安心して生活できる環境を構成していきたいと思った。
- ・グループ協議で小学校の先生の話聞き、子どもたちにとって環境の変化(幼児教育施設→小学校)が必ずしもデメリットにはならないという言葉にハッとしました。心配ばかりが先立ってしまいがちだが、希望や期待をもってワクワクした気持ちで小学校に送り出したいと思った。そのためには小学校への引き継ぎを丁寧にできるよう心がけたい。

小学校教員より

- ・幼児教育施設と小学校は違いすぎると改めて感じた。幼保の授業参観をしてみたい。特別支援の視点も重要なことがわかった。
- ・「なぜその子どもがその行動をしてしまうかに目を向けるべき」という考え方で今後は子どもたちに接していきたいと思った。
- ・幼児教育施設の先生方のきめ細かい優しい支援、時間をかけて話を聞き、褒めて自信をつけさせる寄り添った対応など、小学校でも取り組んでいきたい。
- ・毎回感じるのですが、他の幼児教育施設や小学校での困り感は、自分も感じていることなのだと。それを解消するために、いろいろな手立てや方法があることを学ばせてもらった。
- ・子どもたちが感じている困難さを受け受け止めて、支援していきたいと改めて思った。支援の方策を聞くことができ、よかった。
- ・支援を要する子どもにとって幼児教育施設と小学校とでの情報交換、共有がとても重要であり、環境が変わる中でスムーズにスタートが切れる鍵ではないかと感じた。
- ・現時点で悩んでいたことが、講義やグループ協議で少し軽くなった。
- ・講話をもっと詳細に聞いて学びたいと感じた。初めて知った情報や、職員に伝えたい内容が多くあったため、学校に戻りミニ研修などで伝えたい。

特別支援学校教員、教育巡回相談員(協力者)より

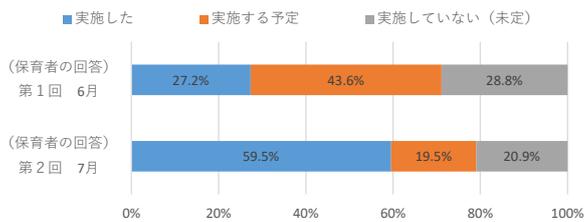
- ・環境が変わると姿として見えてくる子どもの状態が変わることもあるので、その点についても考慮して引き継ぎや情報交換ができるとよいと感じた。
- ・幼児教育施設と小学校との情報交換(子どもの実態だけでなく、授業内容や指示の出し方、支援方法等)はとても大切であると改めて感じた。”
- ・参加された先生方が積極的に意見交換されており頼もしく思った。小学校入学時の学習スタイルに幼児教育施設での活動の仕方を取り入れていきたい等、お互いが歩み寄る意見も聞かれ、今後につながる研修会になったと思う。
- ・幼児教育施設から小学校への引き継ぎが実効性をもつように、個別の教育支援計画や連携体制充実事業等をさらに活用して、有効な接続が可能になるとよいと思った。
- ・例年以上に活発な話し合いが行われていたと思う。いろいろな支援を取り入れているからこそ話し合いが活発になるのではないかと思います。
- ・保育園・幼稚園で、困り感ある子どもへの取り組みがうまくいっている例が数多くあり、素晴らしいと思った。それらのことをうまく小学校へ引き継ぐことができれば、子どもたちが安心して小学校生活をスタートできると感じた。
- ・それぞれの立場で、参加された先生方が奮闘されていることがよくわかった。その成果や課題を適切に引き継いでいくためには、連携・接続の仕方について検討が必要だと思った。

市町村担当者より

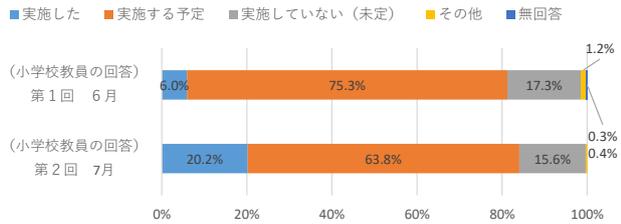
- ・どの幼児教育施設も小学校も、それぞれの課題に向き合い、試行錯誤しながら支援したり関わったりする姿が印象的だった。接続に関しては自治体によって規模や数の差もあるため、それぞれの現状を把握して、どうすればいいかを幼児教育施設と小学校と教育委員会が組織的に考えていくことが大切だと感じた。
- ・事例を活用した協議は、実際の現場と照らして話すことができたので、より活発に協議ができたように思う。また、特別支援学校の先生のご助言等お聞きすることができ、有意義な研修となった。
- ・特別な配慮の必要な子が増えていく中で、切れ目のない支援のために、保幼小の接続がより重要であると感じた。県から出ているサポートブックについて説明いただく中で、改めて教育委員会の役割を再確認した。これからも保幼小の円滑な接続が図れるよう努めていきたいと思う。グループ協議では、現場の先生方のリアルな保育、教育の様子や工夫についてお聞きすることができ、参考になった。

令和7年度第2回保幼小接続担当者研修（動画配信）受講者アンケート結果
【保幼小連携・接続の取組 1～2回経過】

保育者による小学校の授業参観

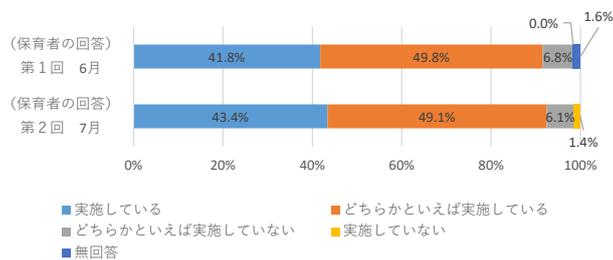


小学校教員による幼児教育施設の保育参観

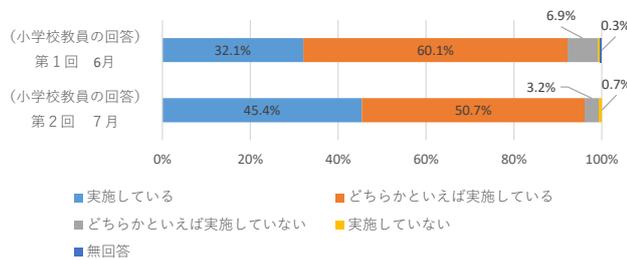


保育者、小学校教員共に、時期が進むにつれて相互参観の実施率が高まっています。引き続き、計画的な実施をお願いします。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、幼児の学びを確認している

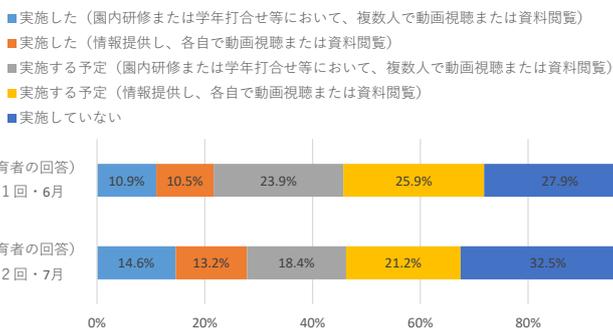


スタートカリキュラムの中に、子供の思いや願いを生かし、自己発揮できる活動を取り入れている

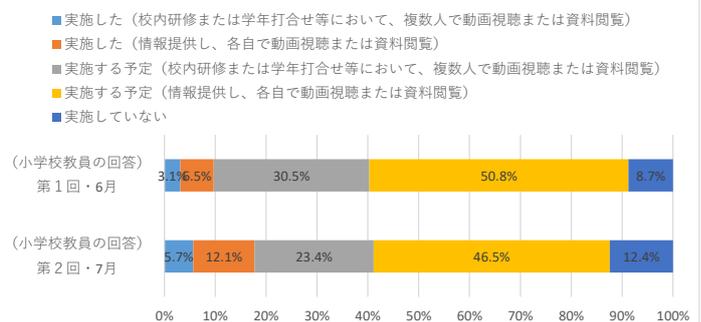


「実施している」「どちらかといえば実施している」担当者は9割以上です。これからも、意識的に取り組んでいきましょう。

「家庭教育応援ナビ」研修動画の園内研修での活用



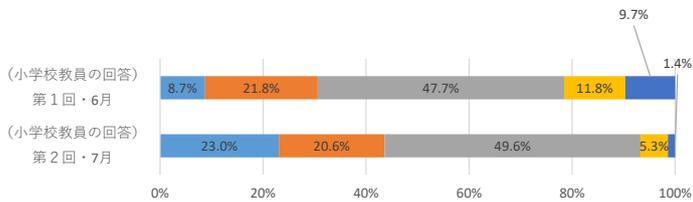
「家庭教育応援ナビ」研修動画の校内研修での活用



第1回より、第2回の活用率が落ち込んでいます。第1回は基礎的な内容だったため、園内・校内研修のニーズが高かったか、時期的な要因も考えられます。「家庭教育応援ナビ」は保育者・教員だけでなく、保護者向けに共有可能な内容もあるため、引き続き活用をお願いします。

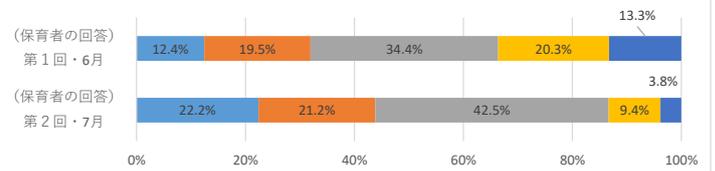
「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」について

- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」を知っており、資料を参考に、近隣の小学校と架け橋期のカリキュラム等について話し合ったことがある。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」を知っており、資料を参考に、既に自分の園で取組始めている。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」「ワークシート」などに目を通したことがある。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」は聞いたことがあるが、どのようなものかわからない。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」という言葉を初めて聞いた。



「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」について

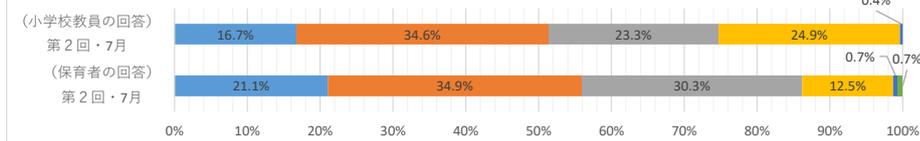
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」を知っており、資料を参考に、近隣の小学校と架け橋期のカリキュラム等について話し合ったことがある。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」を知っており、資料を参考に、既に自分の園で取組始めている。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」「ワークシート」などに目を通したことがある。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」は聞いたことがあるが、どのようなものかわからない。
- 「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」という言葉を初めて聞いた。



「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」の認知率は高まってきています。架け橋カリキュラムを作成していく上で、活用していただけるように引き続き周知していきます。

開発会議について

- 架け橋カリキュラム開発会議について参加している
- 架け橋カリキュラム開発会議についてこれから参加する予定である
- 架け橋カリキュラム開発会議について参加していない
- 架け橋カリキュラム開発会議について開発会議等の予定がない（あるかどうか分からない）
- 架け橋カリキュラム開発会議についてその他



架け橋カリキュラム開発会議について、保育者も小学校教員も約半数が参加しています。今後も各市町村で開発会議を計画・実施し、取組を進めるよう、引き続き呼びかけていきます。